

民家

領主の館

議事室

物語の世界を  
旅しよう

# 物語シート

地名 エゼキエル

タイトル

りょうしん ゆた  
良心と豊かさのあいだで

物語の世界  
旅しようぞ

きみ たびびと せかい たび  
君たちは旅人だ。この世界をあてもなく旅して、エゼキエルへとやってきた。そこは平野に広がった大きな街だ。  
今までの街にあった貧民窟はなく、商店は豊富に物が売られ、治安が良い。一すれ違う人々はみんな笑顔だ。  
そんな時、街中にある立て札に気付く。そこには「領主フランク・レナードの悩みを解決できる者を求む」とあった。  
ひとびと しあわ せいかつ せきにんしゃ まち せきにんしゃ ちが ひとびと えがお  
人々が幸せそうな生活をしている街の責任者である領主の悩みとは一体何だろうか。

オープニング

——みんなでの場所へいく？

場所

りょうしゅやかた  
領主の館

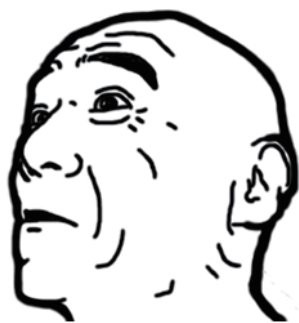
場所

ぎじどう  
議事堂

場所

みんな  
民家

りょうしゅ  
領主フランク・レナード



出会う登場人物

ぎかい だいひょうしゃ  
議会の代表者



出会う登場人物

えら わかもの  
クジで選ばれた若者サラ



出会う登場人物

きみ りょうしゅ す やかた つ いりぐち  
君たちは領主の住む館に着いた。入口  
に立っている守衛に要件を伝え、  
領主の仕事部屋へと案内された。老人  
と呼んでもよい顔色の悪い男がいる。  
顔色の悪い男は君たちに近づいた。

まず、これを読もう

ぎじどう とびら し  
議事堂の扉は閉まっている。  
【条件:領主の話聞く】と以下に続く。  
扉が開き、議事堂の受付で用件を  
告げると、議会の代表者を紹介された。  
30代の女性が君たちに話し始める。

まず、これを読もう

みんな とびら し  
民家の扉は閉まっている。  
【条件:双方の話聞く】と以下に続く。  
ノックをすると女の子が出てきた。  
「私はサラ。あなた達は…旅人さん？」  
と聞いた。さて、何を尋ねようか。

まず、これを読もう

「ワシがこの街の責任者であるフランク・レナードだ。実は君たちに相談したい事がある。」  
「どんな病も治す薬の作り方を悪魔に教わった。この薬は半年に一つしか作れない。そして薬を作る代償は13歳から18歳の健康な若者の命だ。」  
「ワシはこの薬を他国に売った金で、街に学校を作った。孤児や障害を持つ者に生活費を与えている。」  
「しかしワシの良心はすでに限界だ。罪のない街の若者を豊かさの犠牲にすることは耐えられない。」  
「問題は議会の連中だ。ヤツらは薬を作り続けると言う。ワシの代わりに議会連中を説得して薬を作ることを止めさせて貰えないだろうか？」

【条件:領主の話聞く】を達成する。

内容

【条件:領主の話聞く】と議会の代表者が話してくれる。  
「私が議会の代表者です。」  
「あの薬がない時代を私は知っています。学校がなく安い仕事しかできない人々が大半で、孤児達は生きるために盗み、障害を持つ方々は生きることすら…」  
「あの薬のおかげで私達は豊かな生活を送っています。あの薬で得たお金は、教育や生活が苦しい人々の支援にしか使っていません。薬の代償となる若者は公平にクジで選ばれました。彼女は離れの民家で暮らしています。」  
「私は街に住む人々の代表です。街の人々は今の制度を求めています。どうか私達の代わりに領主様を説得して貰えませんか？」

【条件:双方の話聞く】を達成する。

内容

・旅人がクジの制度について聞く  
「私が今の制度についてどう思っているかですって？あの薬のおかげで私達は豊かな生活ができるようになったわ。私も豊かな生活をしている一人。今、大好きな音楽について勉強しているの。他の街では私のような若者は勉強する時間がないと聞くわ。」  
・旅人が本音を聞く  
「もちろん。代償として命を捧げるのは嫌。私だって生きていたい…まだ勉強し足りないわ。私ね。クジで選ばれたとき小さな手鏡の一つ買ったの。それでね。ほほえみ練習をしているの。お別れの時に泣きたくないから…」  
「もう、いいかな？久しぶりに本当の気持ちを話して疲れちゃった…」

内容



# 物語シート

地名 エゼキエル

タイトル

りょうしん ゆた  
良心と豊かさのあいだで

物語の世界  
旅しようぞ

「条件」を達成することで物語が進行します。最初に民家や議事堂に行っても扉が閉まっていて人には会えません。追加要素として、語り手は領主の城の地下に悪魔が住んでいることにしてもよいでしょう。地図にもない隠し場所で、これはレナードから悪魔の居場所を教えてもらわない限り行くことができません。また、自分でオリジナルキャラクターをつかってこの物語を改変してみても面白いでしょう。

メモ

## 何もせずに街から去る

### エンディングの条件A

君たちは何もせずに街エゼキエルを去った。一年後、エゼキエルの噂を聞いた。どうやら領主が行方不明となり、街からは以前ほどの豊かさはなくなったようだ。あの制度に領主の良心は耐えられなかったみたいだ。クジで選ばれた若者サラについてはあれから何一つ分らない。

内容

## 領主を説得する

### エンディングの条件B

説得すると、レナードは青ざめた表情のまま頷いた。それを確認して、君たちは街エゼキエルを去った。一年後、エゼキエルの噂を聞いた。あの街は戦争が原因で減んだそうだ。以前から他の領主は、あの豊かな街を狙っていたらしい。あの街がなくなっていたことに君たちは何を感ただろうか。

内容

## 議会を説得する

### エンディングの条件C

説得すると、議会では議論を三日三晩した。そして、もう薬を作らないことを決定した。それを確認して、君たちは街エゼキエルを去った。一年後、エゼキエルの噂を聞いた。あれから多くの難民が、あの街に流れ着いたようだ。そのため今では貧富の差があり治安も悪化した、どこにでもある街になったらしい。あの薬があれば豊かな街のままだったと君たちは思うだろうか？

内容

## 一緒に街を出ようとサラを説得する

### エンディングの条件D

サラは悩んだうえで、自分自身の気持ちを家族に伝え街を出ることにした。君たちはサラと一緒にエゼキエルを出て、大きな街へと連れて行った。一年後、エゼキエルの噂を聞いた。サラ以外にも多くの若者が、あの街を出たようだ。多くの若者がいなくなった街は衰退するしかないだろう。今後あの街に住む人々はどうすると君たちは思う？

内容

## 領主の館の地下 隠された場所

あくま  
悪魔

悪魔を呼び出したレナードが「どんな病気も治る薬が欲しい」と願ったため若者の命という代償を加えてレナードとの契約をまとめた。等価交換の原則であり、もし君が悪魔と契約したなら、悪魔は君の願いに意地悪な代償を勝手に付け加えることだろう。悪魔と会うにはレナードから地下室の存在を聞いておく必要がある。

### 出会う登場人物

暗く狭い地下室には何かがいる気配がする。その何かを見た瞬間に君たちは理解した。「これは決して出会ってはいけないモノだ」と。その何かは、こちらへ近づいてきた。

### まず、これを読もう

「薬について聞きにこんな所までお客様が来るとは思ってなかったよ…ご苦勞なことだね。そう、俺が“悪魔”だよ。」  
「フランク・レナードと契約したのは10年くらい前。内容は“半年に一度13歳から18歳の健康な若者の命を代償に、どんな病も治す薬を作ることができる能力を与える”ことさ。半年間一度も薬を作らない。レナードのヤツが死ぬ。あとは現実的じゃないが俺が死んだ場合は契約破棄だ…」  
「ただ俺としてはレナードと契約を継続したくない。というのも俺は人間でもが絶望や混乱している姿を見るのが大好きだ。なのにレナードのヤツは自身の欲望のために薬を使わない。残念ながら俺は一人としてしか契約できない。レナードのヤツより他のヤツと契約した方が面白かっただろうな…」

内容